

系 車

編集 山形村ふるさと伝承館



中大池 地蔵様広場

石 仏

山形村は「道祖神のメッ
カ」であり、「石仏の豊庫」だ
といわれる。事実村には種
々の記念碑や歌碑、句碑など
の石造文化財を除き、信仰
の対象となる石仏だけでも
一、三〇〇体余りある。ま
た、その種類も多種多様な
上、高達石工らによる優れ
た彫像が多く、全国から石
仏研究家や写真家、拓本家
たちが訪れてくる。

ひっそり佇む野の仏

【上大池諏訪社影向石】

上大池諏訪社の境内に「当社影向石」と刻んだ標柱が立っている。「影向」とは神仏が一時姿を現わすことをいい、影向石とは神の依代となる石のことで、その標柱の前にある舟型の石をさしている。

伊勢神宮の御神体は絹の布で隠してある舟型の影向石である（小学館発行『日本民俗文化大系』月報3による）というが、こ

のことを知っている人が、いつの頃から伊勢神宮に倣って、舟型の石を諏訪社に奉納したものだろうが、極めて珍しいものである。

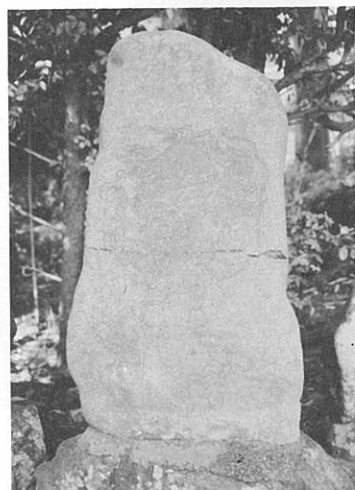
【上大池公民館前の石佛】

上大池公民館前の辻には竜をもつ庚申様、石尊大権現、御岳様、摩利支天、軍馬碑等が立っている。その中に摩利支天の線彫像がある。自然石で高94センチ、幅55センチ、厚20センチで慶応三卯二月

吉辰の記年銘がある。

摩利支天とはインドの民間信仰で日月の光を意味し、風の神とも言われている。思いのままに身を隠し、災難を取り除き利益をもたらす守護神と言われる。

▶上大池線彫の摩利支天



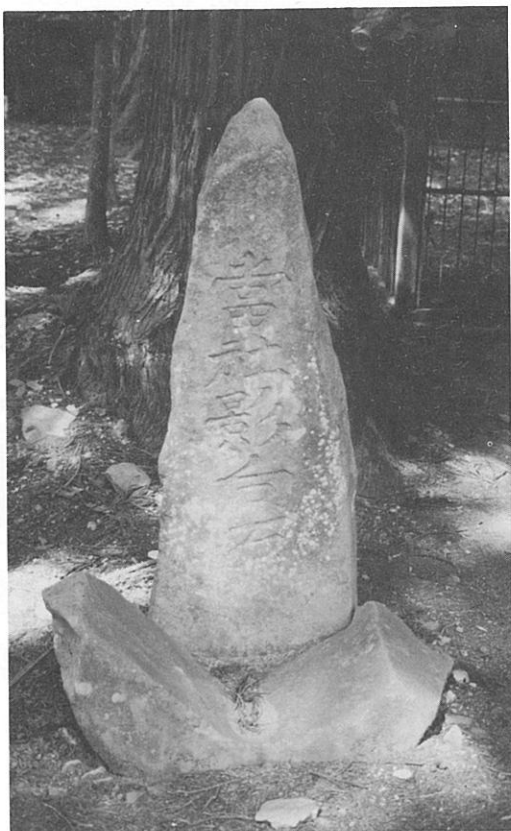
【中大池清水鐘楼碑】

中大池野際路の傍に「清水鐘楼」と刻まれた石碑が立っている。記年銘は享保二十年（一七三五）七月、施主銘は下総浄円・順回・山城新兵衛の三名と、旅宿施主として大池村上條貞五郎外三名の名が記されている。

このあたりの地名を「いいの山」というが享保十二年清水寺の梵鐘を鑄造した所で「鑄りの山」の転化ではないかといわれている。

鑄造から八年後、下総や山城の国からはるばる清水寺に参詣

に来た前記三名が、梵鐘鑄造の話聞きその遺跡を記念するために建立したものであるが、村の歴史上大切にしたい石碑である。



▲上大池諏訪社にある珍しい影向石



▲中大池サラダ街道沿にある清水鐘楼碑

【下大池下村道しるべ】

下大池下村サラダ街道沿いの
畔道に、中央に「大日如来」、そ
の両側に「右わだ左はた、南こみ
いまい」と刻んだ高さ40㍻程の
道しるべが立っている。

構造改善や道路工事のため、
道標は移動したり失なわれたり
したものがあるが、今も村内に
は20基程ある。その中、新しい
ものは殆んど道案内だけだが、
古いものは「南無阿弥陀仏」の名
号や「大日如来」とか「千手観世
音」と仏の名を刻んであるもの
が多い。昔の人の深い信仰心が
うかがえる。

▲下大池サラダ街道脇の道標

【小坂大日堂の石仏】

「その光明、遍く四方を照ら
す」という大日如来には二様の
像体がある。大日堂内に安置さ
れた御本尊は理を表わし、法界
定印を結んでいるが、境内にあ
る石造大日如来

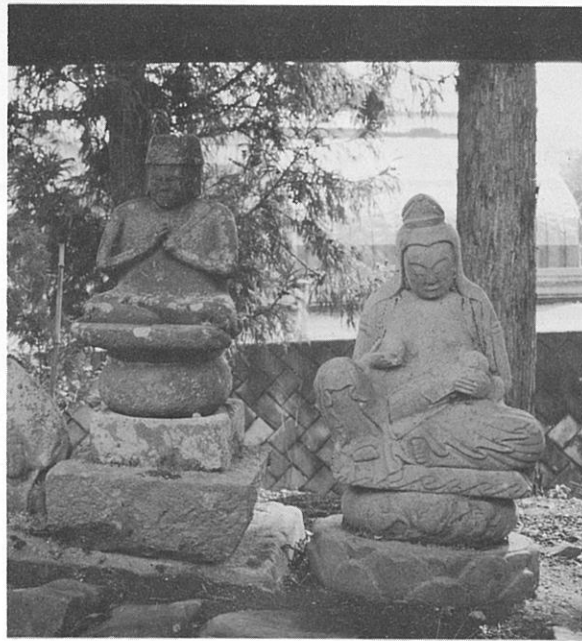
は智を表徴し、
忍者の様な智拳
印を結んでいる。
真言宗では最高
の仏とし、寺院
の本尊とする。
その向って右
は慈母観音又は

子安^{こやす}観音といわれ、安産や育児
を祈願する子安信仰から造られ
たものである。乳房を露出する
女身に造られるので、所によつ
ては「ヌード観音」と呼ばれる
ものがある。

▲大日堂境内に並ぶ石仏



▲御嶽山の霊神像



▼御嶽山頂にある石仏群



【上竹田の御嶽神社】

幕末の頃、上竹田の山中定兵衛が御嶽開闢講の先達として、明治の始めに木曾の御嶽神社に勧請して自家に祭祀してあったものを大正10年に至り講中と相謀り唐沢山に社屋を建てて祭祀し、唐沢山御嶽神社と称して年に一度、春四月頃に祭典を行なっていた。

当時は上・下竹田下大池等にわたり50名位の講員もあつたが現在は社屋も崩壊しかり訪れる人も稀で石神・石像のみが静かに佇んでいる。

【下竹田北堀庚申塔】

北堀広場にある石仏群の中に頭部が欠けている庚申塔があり長らく所在が不明でした。しかし頭部の所在が文化財調査委員による石仏悉皆調査により明らかとなり、この度関係各位の了解のもと接合作業が行なわれ、完全な青面金剛像が姿をあらわしました。

◀あわせてみるとピッタリ
もとの姿をとり戻した



▶北堀広場から三百米離れた
墓地にあった庚申塔頭部

▶北堀広場にあった
なぞの胴体だけの庚申塔

伝承館事業報告

中村太八郎翁 唐沢俊樹翁を偲ぶ会

10月17日には「中村太八郎翁・唐沢俊樹翁を偲ぶ会」が行われ両翁の遺族はじめ50人が出席し偉業を称えました。

中村太八郎の命日にあたるこの日には、例年清水寺にある中

◀献花祭の様子



村太八郎顕彰碑、唐沢俊樹胸像にて献花を行っていました。本年度は悪天候に加え、林道の崩壊により、会場をトレーニングセンターに変更し実施されました。普通選挙運動に尽力した太八郎翁、村出身の大臣であり、郷土の発展に寄与した俊樹翁の功績を思いなおす一日になりました。

特別展『永田兵太郎展』

10月31日、11月1日に「永田兵太郎展」を開催しました。永田兵太郎は嘉永6年に小坂で生まれ、一代にして財をなした明治・大正期における資産家ですが、その財を長野善光寺仁王門の建設に寄進したことはあまり知られていません。また当時の役場庁舎(現下大池公民館)建設、村内各所の用水22カ所に石橋を架橋、身近かなところでは小学校全体师生分の傘を寄贈しておりその傘を使ったという思い出をもつ人もいます。両日は約百人が訪れ氏の功績を示す品々に見入っていました。